



善教寺「石」シリーズ その11

『本堂裏、講師部屋縁側の庭石』

【言語道断（ごんごどうだん）】

「言語道断だ」などといえは「もつてのほかだ」「とんでもないことだ」「あきれてものがいえぬ」などと、たいへん手厳しく判断する言葉として、一般には使われていません。

しかし、この「言語道断」という言葉は、もともと仏教語で、「さとり境地や真理の世界は、言葉や文字では、とても表すことのできないほど、奥深いものである」という意味なのです。

言語道断と書かれているものも見受けられますが、いずれにしても、言葉では表現しえない深い真理を指しています。

【根性（こんじょう）】

現在、一般に使われている根性には、二つの意味があるようです。

一つは、その人の生まれつきの根本的な性質で、心根や性根と同じ意味ですが、「根性悪」

「ひがみ根性」「根性まがり」果てには「根性をたたき直せ」など、どうも悪いニュアンスが漂っているようです。

二つは、激しい訓練にもくじけない強い気質を指しています。スポーツ選手たちの根性物語はこの方です。

仏教では、仏の教えを受ける者としての、宗教的素質、能力や性質のことを、根性といいます。

根性には優劣があつて、仏はその人の根性に応じて、教えの内容や説法の仕方を変えたといわれています。

（辻本敬順氏「仏教用語豆辞典」参照）

住職レター

栄枯盛衰、諸行無常……

また一つ、別れていかなければなりません……。善教寺の境内にあり、五葉松（ゴヨウマツ）、枯れ始めました。哀しい現実、受け入れていかなければなりません。昨年頃から、様子が変わり、気が付けておりましたが、この夏の猛暑で、一気に病魔に侵されたのかも……。

樹高約十三メートル。胸高幹囲約百五十七センチメートル。樹齢は不明ですが、二百年くらいでしょうか。『東広島の巨樹（東広島教育委員会二〇〇六年発行）』にも掲載されている、善教寺の五葉松（ゴヨウマツ）。枯れ行く姿を仰ぎ見るのは、あまりにも辛い。

私が子供の頃から、全く同じ風情で鎮座し続けた、五葉松（ゴヨウマツ）。雨、風、雪に動じず、その威風堂々たる姿に、畏敬の念すら抱いておりました。

しかし、終わりがくるものであります。樹の寿命なのでしょう。延命治療も考えましたが、そのどれも効果は無いとのこと。静かに余生を見守りたいと思っています。

お参りされま

したら、五葉松

（ゴヨウマツ）の

幹をさすって、

「ありがとう」と、

お声を掛けてあ

げてくださいいね。



善教寺の五葉松（ゴヨウマツ）

